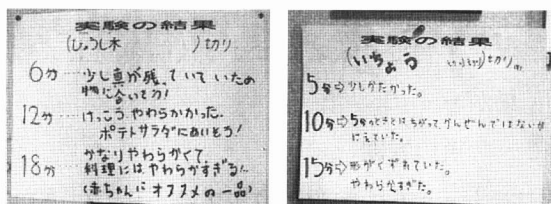


【資料1】ピーカーの様子 【資料2】試し洗い

- 子供の感想やワークシートからは、母親の苦労を思いやる言葉やこれからの本実習に対する意欲が感じ取れた。
- くつ下の試し洗いにより、洗剤を入れるとどうして落ちるのか等の新たな課題を引き出すことができ、本実習へつなげることができた。

**検証授業 2**

- 「実験する」の「試す」活動を取り入れ、じゃがいもの調理の仕方に合ったゆで加減をとらえさせた。子供たちからいろいろな切り方で試したいとの声が出たので、指導計画を変更し、『丸ごと…』等の6つの切り方で実験を行った。
- 結果を基にした話し合いでは「固いので炒め物に合う」等のことがグループから出され、じゃがいもの切り方、加熱時間など本実習への見通しをもたせることができた。(資料3)



【資料3】実験カード

- じゃがいもの皮むきでは、「試す」活動で、削り取るようにむいていた男子も本実習では、上手に包丁を使えるようになっており、「試す」活動は技能の向上にも効果をもたらした。
- 今回は、ぜひ弁当を作りたいという願いをもったため、指導計画を少し変更し、本実習

では弁当作りに取り組んだ。『家族に食べてもらう』ということで、本実習に意欲的に取り組むことができた。(資料4)



【資料4】本実習「お弁当作り」

**考察**

① 題材における「試す」活動の効果的な位置付けの工夫

- 洗濯の学習の第1時目に、くつ下の試し洗いをする活動を位置付けたことで、本実習への意欲を高めることができた。
- 本実習をする前に、「試す」活動をしたことにより、ゆで加減を自分の作りたい調理の計画に生かすことができたことは、的確な位置付けであったと思われる。
- 「試す」活動と本実習の2回の体験を通して、技能向上も同時に図ることができた。

② 「試す」活動から学習の見通しをもたせる指導のあり方

- 試しに洗剤で洗ってみるにより、洗剤についての新たな課題を引き出すことができ、次時の学習の見通しをもたせることができた。
- 調理における「試す」活動は、次時の見通しのみならず、題材全体における見通しをもたせることができた。

③ 主体的に取り組む学習課題の工夫

- 学習課題が「試す」活動から導き出されたことにより、より身近で具体的な課題となり、学習への参加意欲が高まった。
- 家族への温かい心遣いなどには、まだ気が回らない子供たちでも、「試す」活動により、